



テーマ

サステナブル 未来予想図

～豊かで活力ある未来のために～

サステナブル 未来予想図

～豊かで活力ある未来のために～

いま世界では、経済活動に伴って発生する社会課題を抑制し、社会・環境への配慮を経済合理性に繋げることで人類の生存や様々な活動の基盤を守ることが求められています。そのような動きを、「サステナビリティ(持続可能性)の重視」や「サステナブル(持続可能)な社会を目指す活動」と呼んでいます。

高校生・大学生の皆さんが大人になっても、変わらぬ暮らしやすい地球で過ごしていけるように、心に描く「サステナブルな未来予想図」を提案してください。



「NRI学生小論文コンテスト」とは？

日本と世界の未来について、次代を担う若い学生のみなさんに考える機会を持っていただくための論文コンテストです。

野村総合研究所(NRI)は、「未来創発——Dream up the future.」という企業理念のもと、未来社会のパラダイムを洞察し、その実現を担うことを使命としています。

この一環として、これからの社会を担う若い世代の皆さんに、日本や世界の未来に目を向け、自分たちが何をなすべきかを真剣に考え、その熱い思いを発表する場を持っていただこうと、2006年から毎年「NRI学生小論文コンテスト」を開催しています。

毎年、学生の皆さんから、日本と世界の新たな関係づくりや、明るい未来に向けた斬新で力強い提案をいただいています。

NRIは、コンテストで入賞した若い世代からの提案を広く社会に公表することによって、若者を含む幅広い世代が、日本の未来を考えるきっかけにしたい、と考えています。

若い皆さんが心に描く 「サステナブル未来予想図」を提案してください

「NRI 学生小論文コンテスト」は、今回で14回を数えます。これだけの長い間本コンテストを続けて来られたのは、学生の皆さん、学校関係者、審査委員など、関係する多くの方々のお陰だと感謝しております。改めて深く御礼申し上げます。

いま、世界では、地球環境問題をはじめ、様々な社会課題への危機意識が高まっています。スウェーデンの環境活動家、グレタさんの活動が話題となっていますが、10年後、20年後には、環境や社会に対して高い問題意識を持つグレタさんのような人が、標準的な消費者になっているだろうとNRIは予想しています。NRIグループにおいても、若い人たちの環境問題やサステナビリティの問題に対する思いを真摯に受け止めながら、今後の事業活動を行っていきたいと考えています。

今回のコンテストで、学生の皆さんが、豊かで活力ある未来のためにどのような「サステナブル未来予想図」を描いてくれるか、楽しみにしています。

NRI 代表取締役会長兼社長
此本 臣吾



これまでの募集テーマ

大学生の部・留学生の部 | 高校生の部

- 第1回 (2006) ユビキタスネット時代のITと人間の関わり | モチベーションクライシス
- 第2回 (2007) 日本が世界と共生するには | 日本から見た世界 世界から見た日本
- 第3回 (2008) 日本の「第三の開国」に向けて | 2015年の日本人像・家族像
- 第4回 (2009) ITを活用した日本発ビジネス | 日本はコレで世界一になる!
- 第5回 (2010) 日本が世界のためにできること | 世界のなかで日本の魅力を高めるには
- 第6回 (2011) 2025年、新しい“日本型”社会の提案 | 2025年の日本を担うわたしの夢
- 第7回 (2012) 自分たちの子ども世代に創り伝えたい社会
あるべき社会の姿と私たちの挑戦 | 私たちがすべきこと、できること、やりたいこと
- 第8回 (2013) あなたが考える“わくわく社会”を描いてください
- 第9回 (2014) 創りたい未来社会 —あなたの夢とこだわり
- 第10回 (2015) 2030年に向けて —「守るもの」、「壊すもの」、「創るもの」
- 第11回 (2016) Share the Next Values! 世界を変える、新たな挑戦
- 第12回 (2017) Share the Next Values! 地方の課題をイノベーションで解決する。
サブテーマ ①震災復興 ②地方創生 ③地方の産業改革
- 第13回 (2018) 2030年の未来社会を創るイノベーションとは —世界に示す日本の底力!



これまでの受賞論文記録集

ジャーナリスト

池上 彰 さん

「日本や世界の未来に対する危機感から 様々な社会課題への思考を深めて」

「NRI 学生小論文コンテスト」には2006年の第1回目から携わり、今回で14回目となりました。毎年、応募論文に大いに刺激を受けながら審査にあたっています。

今、大学生、高校生の皆さんには、これからの未来に、日本は、そして世界はいったいどうなっていくのだろうという危機感が強くなっていることと思います。論文では、広い視野に立って、小さくまとまらずに斬新な発想を大切に、若い皆さんにしか書けないアイデアを提示してほしいと願っています。そして、論文執筆後も、その先の課題を見つけて、さらに思考を深めていくことを期待しています。



池上 彰 (いけがみ あきら) ——ジャーナリスト。名城大学教授、立教大学客員教授、日本大学文理学部客員教授、東京工業大学リベラル・アーツ研究教育院特命教授、信州大学特任教授、愛知学院大学経済学部特任教授。特定非営利活動法人「日本ニュース時事能力検定協会」理事、毎日新聞「開かれた新聞」委員会委員。1973年NHKに記者として入局し、1994年から「週刊こどもニュース」の“お父さん”を11年間務め、2005年独立。著書に『伝える力』『池上彰の現代史授業——21世紀を生きる若い人たちへ シリーズ』『知らない恥をかく世界の大問題』『池上彰教授の東工大講義』『大世界史』『考える力がつく本』『考える力と情報力が身につく 新聞の読み方』など。

ノンフィクションライター

最相 葉月 さん

「未来は、今この瞬間の積み重ね。 今この瞬間に見えていることから 想像力を羽ばたかせて」

今回のテーマは「サステナブル未来予想図」です。ここで改めて「未来」とは何だろうと考えたとき、私は「今この瞬間」こそが未来だと思っています。つまり、「今この瞬間を生きることが積み重なることによって、未来が作られる」ということです。だからこそ、若い皆さんには、今この瞬間に見えていることから想像力を羽ばたかせて、未来を考えて欲しいと思っています。

良いアイデアというものは次々と新しいアイデアを呼び込んで、連想がつながっていくものだと思います。そんなユニークなアイデアに出会えることを、楽しみにしています。



最相 葉月 (さいしょう はづき) ——ノンフィクションライター。科学技術と人間の関係性、災害、医療などを中心に取材執筆活動を行う。著書に『絶対音感』（小学館ノンフィクション大賞）『青いバラ』『ピヨンド・エジソン 12人の博士が見つめる未来』『セラピスト』『れるられる』『ナグネ 中国朝鮮族の友と日本』『調べてみよう、書いてみよう』『理系という生き方——東工大講義 生涯を賭けるテーマをいかに選ぶか』、共著『胎児のはなし』など多数。『星新一一〇〇一話をつくった人』にて大佛次郎賞、講談社ノンフィクション賞、日本SF大賞、日本推理作家協会賞（評論その他の部門）、星雲賞（ノンフィクション部門）受賞。

大学生の部、高校生の部 募集テーマ

サステナブル未来予想図 ～豊かで活力ある未来のために～

【背景】

人類に繁栄をもたらしてきた技術革新と経済成長が、人々の生存や活動の基盤となる地球や社会に、深刻な被害をもたらしつつあります。世界中で、激甚自然災害の多発、貧富の差の拡大、政情不安やテロの増大等が生じていることは、その表れと言えます。

今、世界では、経済活動に伴って発生する社会課題を抑制し、社会・環境への配慮を経済合理性に繋げることで、人類の生存や様々な活動の基盤を守ることが求められています。そのような動きを、「サステナビリティ（持続可能性）の重視」や「サステナブル（持続可能）な社会を目指す活動」と呼んでいます。

【テーマ設定】

デジタル化と社会的な価値観の変化を現わす動きの一つとして、様々なビジネスが、従来の「モノづくり」から「サービスとして提供する」形に変化してきています。そして、デジタル化とともに大量に収集されるデータや、それを人工知能（AI）で分析して人々のニーズに合わせて提供するサービス「aaS」（アズ・ア・サービス）が普及するとみられています。

デジタル化が進む経済・社会では、大量のデータをいかに価値や人々の幸せに結び付けるかという工夫が重要になります。特に「aaS」においては、製品やサービスを提供する側が、モノ起点ではなく、サービスを受ける顧客の起点でビジネスを発想することが重要です。

皆さんも、新しい技術や考え方を取り込みながら、サービスを受ける顧客の立場で、サステナブルな未来につながる取り組みを考えてみてください。

皆さんが大人になっても、かわらぬ暮らしやすい地球で過ごしていけるように、皆さんが心に描くサステナブルな未来予想図を提案してください。

「サステナブル未来予想図 ～豊かで活力ある未来のために～」
未来を拓く、オリジナリティあふれる提案をお待ちしています

大学生の部

募集期間

2019年7月1日～9月5日

応募資格

日本国内の大学院、大学、短大、高等専門学校（4～5年）に在籍している学生で、2019年7月1日時点で27歳以下の、個人またはペア（ペアの相手は、「大学生の部」「高校生の部」いずれかの応募資格者であること）。

字数

4,500～5,000字 *別途400字程度の要約を添付

賞

[大賞1作品] 賞金50万円

[優秀賞1作品] 賞金25万円

[奨励賞 数作品] 賞金5万円

高校生の部

募集期間

2019年7月1日～9月12日

応募資格

日本国内の高校、高等専門学校（1～3年）に在籍している学生で、2019年7月1日時点で20歳以下の、個人またはペア（ペアの相手は、「高校生の部」の応募資格者であること）。

字数

2,500～3,000字 *別途200字程度の要約を添付

賞

[大賞1作品] 賞金30万円

[優秀賞2作品] 賞金15万円

[奨励賞 数作品] 賞金3万円

〈応募に際しての注意事項〉

- ・応募論文は、日本語で執筆された、自作で未発表のものに限る。
- ・他の著作物を引用する場合は、その箇所を明記するとともに、論文の最後に出所を記載する。
- ・図表中の文字、図表タイトル、注釈、参考文献一覧は、字数に含まない。図表の数は5点以内とする。
- ・他のコンテストなどに同内容の得論文を多重応募することは禁止とする。
- ・最終審査会のプレゼンテーションの映像は、内容を確認した上でYouTubeで公開する。
- ・入賞した論文の著作権は、野村総合研究所に帰属する。

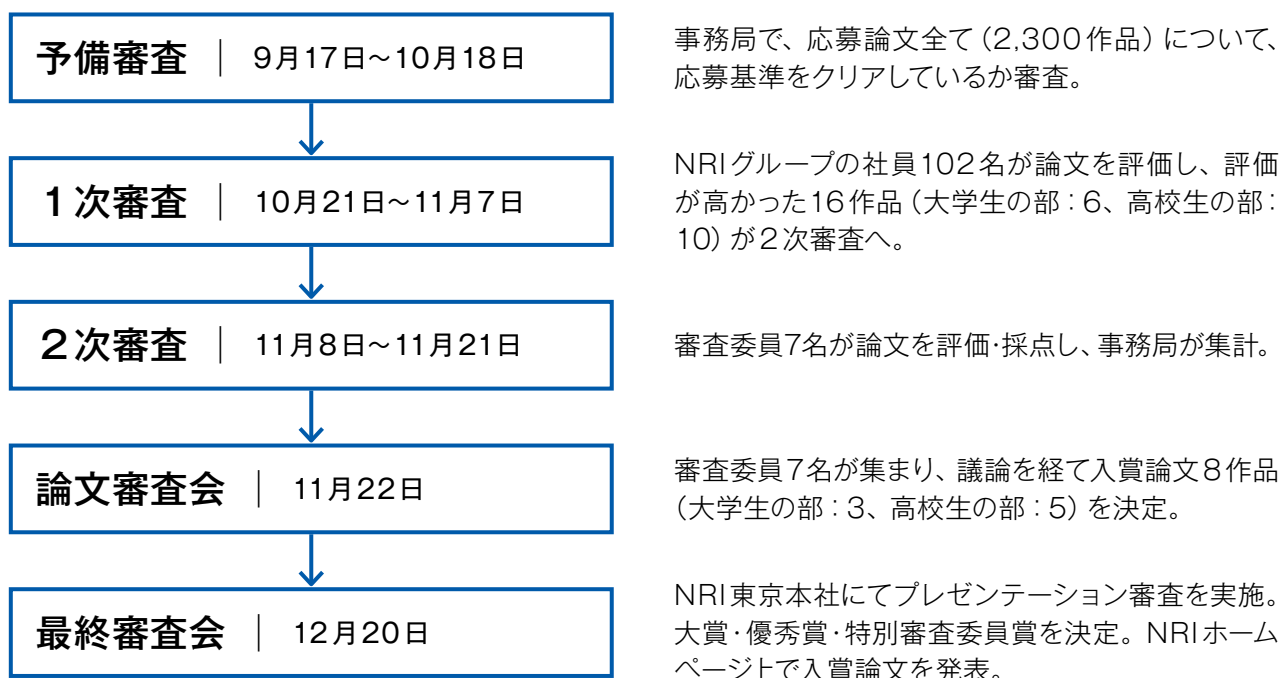
NRI 学生小論文コンテスト2019 審査のプロセス

入賞論文は、予備審査→1次審査→2次審査→論文最終審査→最終審査会という5つのステップを経て決定しました。

最終審査会では、プレゼンテーション審査を実施

- 論文審査を通過した入賞者には、最終審査会において6分間のプレゼンテーションを行っていただきました。
- 各賞は、最終審査会におけるプレゼンテーションで確定させました。

最終審査会以外は、どの審査においても、応募者の学校名、氏名などの属性を秘匿したうえで、厳正に行っています。また、評価が偏らないように、1つ1つの応募作品を複数の者が評価しています。



〈論文審査の評価基準〉

◆ テーマと論点の整合性

◆ 問題発見力

- ・ 独自の視点で問題の提起がなされているか
- ・ 論点に対する切り口の鋭さ、考察の深さ
- ・ 具体例、数値を使用するなど論点のわかりやすさ

◆ 問題解決力

- ・ 提案や解決策のスケールの雄大さ、視野の広さ
- ・ 提案や解決策の独自性・実現性

◆ 文章力

- ・ 論文構成のわかりやすさ
- ・ 文法の正しさ、誤字・脱字の少なさ

◆ 斬新／大胆な発想力

- ・ 実現性に乏しくても、発想が斬新で大胆なもの
- ・ 多くの人に夢や希望を与えるもの

◆ 上記には該当しない評価点

- ・ 評価基準以外の尺度においても加点(例: テーマや提案内容に対する熱い思い、独自の調査・取材の実施、体験談、など)

入賞作品

NRI学生小論文コンテスト2019

入賞者のみなさん、おめでとうございます！

大学生の部

大賞

えらぶのゆきプロジェクト

中吉 聖仁 鹿児島大学 法文学部3年
是石 弘基 鹿児島大学 法文学部3年（共著）

優秀賞

海洋プラスチックごみで道路を再生

大野 いずみ 早稲田大学 スポーツ科学部3年

特別審査 委員賞

孤独の解消で始まる持続可能な未来の土台づくり

中基 千智 早稲田大学 政治経済学部3年

高校生の部

大賞

アフリカの子供達と世界をつなぐ「BUDDY」プロジェクト

森田 輝 千葉県 市川高等学校2年

優秀賞

AlaaSで高齢者に給食を、健康で持続可能な幸福を

佐野 綾花 石川県 金沢泉丘高等学校2年

優秀賞

AI搭載型献立アプリ「WFD」 —スマホで始める食品ロス対策—

玉井 佳音子 東京都 中央大学高等学校3年

特別審査 委員賞

未来につなぐ学びの場づくり「未来まちづくりプロジェクト」

宮川 幸己 埼玉県 本庄東高等学校2年

特別審査 委員賞

持続可能な街づくり —住み続けられるまちづくりを実現するには—

米山 太樹 埼玉県 狭山ヶ丘高等学校2年

大学生の部 敢闘賞・奨励賞

**ファストファッションから考える
大量消費社会からの脱却
～新しいプラットフォームの設立～** 敢闘賞
淡路 朋代 武蔵大学 経済学部3年
一万田 穂南 武蔵大学 経済学部3年 (共著)

**トークンエコノミーを活用した
地縁組織活性化システムの提案
～持続可能な自治会・町内会の構築を目指して～** 敢闘賞
井上 慧太 獨協大学 経済学部3年

世界が認める持続可能な観光地 敢闘賞
北 夏苗 中央大学 文学部3年

**公共領域の再構築
—持続可能なデモクラシーを如何に実現するか—** 奨励賞
栗本 拓幸 慶應義塾大学 総合政策学部2年

**超少子高齢社会における
サステナブルな社会への考察
—知のシェアリングエコノミー—** 奨励賞
三宅 理沙 東京医科歯科大学 歯学部5年

高校生の部 敢闘賞・奨励賞

**外国人観光客に向けた6次産業でのサービス
—伝統野菜の活用を通して** 奨励賞
相武 靖将 愛知県 愛知工業大学名電高等学校2年

マイボトルの完全普及へ 奨励賞
一戸 清花 東京都 中央大学高等学校3年

**子供を持つことを望む男女全ての人の
希望が叶う社会へ** 敢闘賞
大塚 美音 東京都 中央大学高等学校3年

いよおっ!「江戸化」で粋な環境保全! 奨励賞
岡島 雪乃 埼玉県 本庄東高等学校2年

**「枯れ木に花咲く」
～ペットボトルからペットボトルに～** 奨励賞
北村 綾香 宮城県 宮城野高等学校1年

**深刻なゴミ問題と解決策
～ITの活かし方とは～** 奨励賞
高野 茜 埼玉県 本庄東高等学校2年

日本人の心理から考える最適な働き方 敢闘賞
小林 史希 埼玉県 狭山ヶ丘高等学校2年

パーマカルチャーの可能性 奨励賞
酒井 庸至 千葉県 市川高等学校2年

**教育のデジタル化は生徒に何をもたらすのか。
期待される人生のサステナビリティ(多様性と機会均等)
の未来** 敢闘賞
高橋 舞珠 埼玉県 本庄東高等学校2年

**昆虫食と築く私たちの未来
～豊かな生活を持続させるために～** 敢闘賞
武田 侑己 宮城県 宮城野高等学校1年

**北海道新ひだか町で「静内映画劇場」建設
・映画イベントを行い地方創生することは可能か** 敢闘賞
田湯 亜蓮 北海道 立命館慶祥高等学校3年

**保育園と高齢者向け介護施設の複合施設の可能性
—子ども、働く世代、高齢者の共生を目指して** 奨励賞
濱田 愛結 神奈川県 横浜雙葉高等学校2年

子供を育てやすい社会へ 奨励賞
平山 凜乃 千葉県 市川高等学校2年

伝統技術と最新技術が作る基盤 奨励賞
諸井 聖隼 埼玉県 狭山ヶ丘高等学校2年

**バイオマスエネルギーの活用
～雑草から燃料をつくる～** 奨励賞
吉岡 拓海 埼玉県 本庄東高等学校1年

「NRI学生小論文コンテスト2019」の応募論文数と入賞論文数は、以下のとおりです。

応募論文数

大学生の部	高校生の部
84	2,216
総数 2,300	

入賞論文数

	大学生の部	高校生の部	計
受賞 (大賞・優秀賞・特別審査委員賞)	3	5	8
敢闘賞・奨励賞	5	15	20
計	8	20	28



論文審査会の様子